

特定非営利活動法人 恩おくり(江別市)



倉庫及び食品の陳列状況



スタッフの皆さん

◇【フードバンク活動開始の経緯】

- ◆コロナ禍で地域の繋がりが失われつつあった時期に地域の支え合いと居場所づくりを目的として、「恩ちゃん家(おんちゃんち)」を開設。
- ◆子ども食堂や地域食堂を運営する中で、食品ロスの削減や、ひとり親家庭など生活困窮世帯への支援を強化するため、フードバンク事業を本格化。

◇【活動の概要】

- ◆江別市内のスーパーで集まった未利用食品を受け取り、社会福祉協議会を通じて子ども食堂、居場所団体、母子家庭、生活困窮世帯へ提供。
- ◆「よりあい食堂」(子ども食堂・地域食堂)を、年30～40回開催。
- ◆子ども食堂団体などをサポートする中間支援組織として「江別こども食堂ネットワーク」を運営。

【組織の概要】

- 団体名: 特定非営利活動法人 恩おくり
- 所在地: 江別市大麻扇町
- 代表者: 理事長 岩本 希
- 活動人数: 5名(他、ボランティア数名)
- 活動開始時期: 2024年
- HP: <https://www.on-okuri.net/>
- 取扱品: 加工食品、米、野菜など
- 原則常温のもの、冷凍・冷蔵品は要相談。

【取組む際に生じた課題】

- ◆お米やレトルト食品、菓子類など、常に需要のある食品の安定確保。
- ◆活動資金の不足や運営スタッフの確保、後継者の不足。
- ◆江別市内の全17小学校区に子ども食堂を広げるため、ボランティアの育成が必要。
- ◆支援が必要な人に情報を届けるとともに、利用者が気兼ねなく助けを求められるよう、気軽に立ち寄ることができる雰囲気づくり。

恩おくりの食品取扱いのフロー図



【今後の展望】

- ◆寄贈される食品は、活動拠点の「恩ちゃん家」への引き取りや配達が中心。利用者が増えた場合に備えて、効率的な配送体制の構築、倉庫など保管場所の確保に取り組む。
- ◆「江別こどもネットワーク」を円滑に運営するため、食品の分配や情報共有といったコーディネート業務の負担を減らし効率化を進めるとともに、加盟団体同士の交流も促していく。